

議 事 録

1	会議名	富士見市基本構想審議会第7回会議
2	開催日時	平成22年4月26日（月）13時30分から16時
3	出席者名	委員：新井義明委員、市川正三委員、市川浩委員、伊藤悦子委員、上田威委員、渋谷義衛委員、清水實委員、田中洋子委員、根岸由紀子委員、柳田政男委員 市側：斉藤総合政策部長、斉藤政策財務課長、政策財務課（事務局）
4	傍聴者	2名
5	次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 協議事項：富士見市第5次基本構想の骨子（たたき台）について 4. 閉会
6	決定事項等	・ 基本構想の骨子（たたき台）に沿って、主要課題の今後の方向性について議論した。
7	議事内容	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p style="padding-left: 2em;">会長あいさつ</p> <p>・ 基本構想のたたき台が示されたので、本日はこのたたき台について議論する。</p> <p>・ 実際に答申する案になるまでには、本日を含めて4回程度の会議を予定している。</p> <p>3. 協議事項</p> <p>事務局説明 (資料1 基本構想の骨子(たたき台)の序論について事務局から説明)</p> <p>質疑応答</p> <p>委員</p> <p>・ 3ページ「自治体を取り巻く環境」の3番目「地球温暖化対策」について、温暖化自体に疑問を感じる。実際、温暖化ではないとする学者もいるようである。</p> <p>・ 私自身、昆虫を専門でやっているが、東北や北海道にしかいない昆虫が随分南下している。</p> <p>・ 地球温暖化に疑問符がついているので、異論を唱えたい。</p> <p>・ また、下のほうに「下水道などの未整備」とあるが、市街化区域でも下水道未整備のところがあるのか。</p>

事務局	・ 市街化区域でもある。
委員	・ 下水道の整備率はどれくらいか。
事務局	・ ほぼ整備されており、市街化区域内で整備されていないところは、区画整理事業を施行している地域である。
渋谷会長	・ 現在は、水子の95ヘクタール、諏訪の5ヘクタールが暫定調整区域になっているため、こちらも未整備地区である。
委員	・ 整備の計画がなかったのか。
渋谷会長	・ 市街化調整区域だから今まで計画がなかった。今後、市街化区域に編入されれば、当然、整備をしていくと思う。
事務局	・ 下水道の未整備については、市民意識調査から得た回答であり、道路と下水を一緒にした聞き方になっている。
委員	・ 道路のほうが、ニュアンスが強いということか。
事務局	・ その通りである。
渋谷会長	・ 温暖化については、以前もご意見が出た。
委員	・ 「統計ふじみ」に出ている気象データと、越谷、さいたま、所沢のデータと比較してみた。その結果、富士見市の平均気温の上昇率はその3地点よりもはるかに高かった。事実として富士見市は気温が上がっていた。
	・ 統計データを見ると、ヒートアイランドなどの影響のほうが大きいと思うので、地球温暖化対策というより、異常気象対策などの言葉がよいのではないか。
	・ また、ここ10年ぐらいの間に、冬に非常に雨が降るようになったり、夏にわか雨がひどくなっている。そういう観点から、地球温暖化対策というところをうまく言いかえて、例えば、地球温暖化対策等の異常気象時の対応など、よりよい言葉を見つけて、この項目は何かしら残したほうがいい。
委員	・ 非常にわかりやすい意見である。やはり、ヒートアイランドなどの影響が相当あるのではないかと思う。そういうことからいくと、地球温暖化対策という1つのレベルで書いてあるのはいかがなものか。人為的な異常気象みたいなものを引き起こさないような役割を各市町村も持つべきではないか。
	・ 4ページの富士見市の将来像について、2番目に「安定した税収があり、行政サービスが充実したまち」があるのはすごいことだなと思って感心した。
渋谷会長	・ 只今、「自治体を取り巻く環境」について、地球温暖化対策という言葉を経々しく使うべきでないというご意見が出た。
	・ 確かに、いろいろな社会環境が変わり、地球の平均気温というのは上がっている。温度が上がっていることについては、日本や世界全体で取り組むべき話ではあるが、やはり一自治体として、そういう形で認識を持つことは必要であると思う。その点について、温暖化対策という言葉で済ませる

委員	<p>のか、表現について事務局のほうで再度検討をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の問題だと思うので、温暖化は消して、地球環境とか気象に対する対策など、ほかの言葉に変えていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ それから最初のタイトルが「自治体を取り巻く環境」となっており、一般論に聞こえる。富士見市だけのことを言っている環境なのか、あるいは全体的な地方自治体の環境なのかということをはっきりすべきである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今ここに挙げているのは、一般的な部分を挙げている。これに伴う富士見市の状況は整理していく。今日のところはタイトルだけ表示させていただいた。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ こうした時代認識、背景を踏まえ、基本構想を組み立てていく必要があると思う。文章的におかしいものがあれば、事務局に研究してもらおうということで、ひとつご理解いただきたい。
事務局	<p>事務局説明 (資料1 基本構想の骨子(たたき台)の第2部(1)(2)について事務局から説明)</p> <p>質疑応答</p>
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、主要課題の今後の方向性についてご議論いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1章で示されている児童福祉の充実や学校教育の充実などで、本当に子供を安心して生み育てることができるのか。 ・ 安定した収入があるとか、大きな話になるが結婚制度など、相当思い切った発想転換や産業の振興などまちづくり全体で考えていかないと、子供を生み育てるといった少子化対策にならないのではと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境として、子供を生むことはできると思うが、前回も言わせていただいた通り、親育ての必要があるのかと思う。示された内容だとその点の取組みが見えてこない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内の乱れなど親の教育については、どの部分で触れているのか。 ・ 親の教育というのは、社会教育の部分であり、生涯学習という範疇に入るかと思うが、現在の章立てでいくと、(3)の「学習・文化の充実」で、「生涯にわたる学習機会の充実」とある、その中で親の教育は見ていくという形になる。しかし、子どもの教育といった点では一体的に考える必要があるので、今後、整理していかないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化対策というか、そもそも出生率が低下しているのが問題ではないかと思う。それは、女性が働きながら子供を育てるといったことの大変さ、子育て環境が整っていないことも要因ではないか。 ・ そうしたことを踏まえ、さまざまな支援システムについて、もう一步踏み込んだようなものを考えていかなければ、少子化に歯止めがかからないと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して子どもを生み、育てられる方法としては、経済的な安定の部分もないといけない。また、子供が生まれたら保育所や放課後児童クラブにも預けられることによって、安心して育てられるようになる。このように、

委員	<p>子育てについては、児童福祉や学校教育、青少年の健全育成、雇用問題から経済的な問題など、まちづくり全体を通して考えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> この一覧を見て、第4次基本構想のときには、自然や施設、環境、それから「人」が来て、それを支えたものとなっていた。それが、今度のたたき台では、まず「人」ということで、それも学校とか教育とかいう、へさきの部分がきている。それから、健康づくりとか、次に人づくりのところに行って、それを支える産業とか都市基盤という順番になっており、なるほど賛成である。まず人づくり、人ありきなんだという構成はいいと思った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉の充実や、地域・市民による子育て応援体制の充実などについて、以前にも申し上げたと思うが、老人のパワーを活用するため、元気なお年寄りが、お年寄りの面倒を見るとか、子育てもお年寄りが見るなど、考えていく必要もあるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> (2)④の高齢者福祉の充実について、高齢者社会がどんどん進んでいる状況に対して、これだけではちょっと足りない部分があるのかなと思う。例えば、「介護が必要な高齢者が、在宅での生活を安心して送れる」など、精査してもらえばありがたい。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> これらについては、この審議会のほかにも幅広く意見を頂戴しているところである。それらを踏まえ、事務局でとりまとめたものを改めて審議していくという形で、本日は次の分野に進めさせていただきたい。
事務局	<p>事務局説明 (資料1 基本構想の骨子(たたき台)の第2部(3)(4)について事務局から説明)</p>
	<p>質疑応答</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 前にも話題になったが、観光については「地域活性化の推進」の中に入ってくる予定なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> その通りである。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> これは前回と比較すると、章立ての文章が少し長い気がする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> タイトルについて、簡潔なのが市民には分かりやすいのではと思う。「安心して生み育てるまち」とか、「生涯を通じて安心して生活できるまち」とか、あまり長くしないほうがよいのかなと思う。 「産業振興や地域資源の活用による」とってしまって、「にぎわいのあるまち」とか、そういうふうにすると非常に短くてわかりやすい。 「農業の振興」で、この地域は都心から近く、非常に有利な近郊農業地域なので、そのあたりのことを記載しておかなくてよいのか。近郊、立地条件的なことを少し表現しておいたほうが、農業従事者やこれから農業に従事しようとする人にとっても必要なフレーズだと思う。 びん沼は観光地なので、農業と観光をうまく連携させた活用を考える必要がある。例えば、びん沼は人を集める魅力があるので、そういった人の動

渋谷会長	<p>線などを調査し、地元農作物を加工し販売するなど、富士見市の農業は取組み次第では様々な可能性を秘めていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> そのあたりについては、言葉は「農業の振興」だが、具体的には、地産地消の取り組みを推進するだとか、安全で安心な農産物を対外的に発信することで地域内消費も推進するなど、構想としては「農業の振興」というのはこんな方向性で考えていますよということになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 農業だけに絞らないで、価値観が2つあるものを1つにすると新しい価値観ができるので、近郊農業だとか、都心とのいろいろな絡みだとか、そういう土地の有利性を活用して、新しいタイプの農業を展開するとよい。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> それは、基本構想でどこまで具体的なことを表現できるかという部分である。ここの小柱の説明の中で、農業振興というのはこういうものが含まれていますよという、文書表現を若干つけ加えて整理するのがいいのかなと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化ということで、観光というのはここに入っているのかというご質問をいただいたところだが、観光という言葉地域活性化という表現にしている。今、意見のあった農産物の販売などの取組みも、地域活性化の中に含め、独立させていただいている形である。 またその手段について、委員からおっしゃられたような内容を踏まえて、生かしていくという部分は、今後の課題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私はサイクリングロードに期待している。多分、よその地区からもたくさん来るのではないか。そのときに、例えば500メートルずつとか印をつけておけばジョギングなどを趣味とする人たちが結構訪れると思う。 そして、市に魅力があれば、そこから枝分かれして散策など、市内各地に行ったりするのではないか。そのため、散歩コースや観光マップ的なものをつくってもらいたいかもしれない。
事務局	<p>事務局説明 (資料1 基本構想の骨子(たたき台)の第2部(5)～(7)について事務局から説明)</p>
渋谷会長	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・防犯については分けたほうがいいのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 当然、分けたほうがいい。あと、防災のところ、「災害時に地域で助け合える体制づくりを進めます」とあるが、これは非常に大切である。これには前のところの福祉の関係が出てくる。「高齢者福祉の充実」と「障がい者福祉の充実」とあるが、この辺と関連させて取り組まないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 福祉において弱い方など、防災を考えながら助け合うという仕組みづくりをしたほうがいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 防災と防犯に関しては、地域のつながりが弱いところはやはり犯罪が起きやすい。災害などもそうである。地域のつながりが希薄なところはお互いに助け合おうとか、そういった意識がやはり低いので、被害が大きくなる

委員	<p>傾向がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携してとか地域で助け合うとか、まず一番大事なのは地域のコミュニティである。そこに住んでいる人たちがお互いに、犯罪だとか防災以外のときにはできるだけプライバシーを尊重して、そういうときだけ助け合えるような体制というか、それが今、委員がおっしゃっているようなことだと思う。だから、何でもいいから、地域コミュニティをどうやってつくるかといった、そういうものを前面に出せるといい。 ・ 普段からのコミュニケーションを大切にしないと、その方の生活スタイルなどが分からない。そのためには普段からのつき合いが重要になると思う。幾ら災害弱者だからといっても、付き合いなどが少ないと、そういった点の情報が分からず、迅速な対応が困難である。こうしたことから、やはり普段からのコミュニケーションは大切である。そのためには災害だけではなく、福祉も絡んでくるであろうということである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここに載せてもらいたいことではないが、前から何度も言っているように、勝瀬町会が2,800人ぐらいであって、旧町会が700人しかない。駅周辺の人たちの町会は勝瀬町会だが、回覧板も回っていない。そういうところに町会をつくってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで町会は、それぞれの組織でグループをつくって自治会をやっていた。でも、これからの行政運営はそれではいけない。町会というのは行政の一端を担うぐらいのものになっていかないと、これからは、地域が成り立たなくなっていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口サービスについて、ここまで来るのが大変な方たちのために、出張所をもうちょっと利便性の高い窓口にしてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここでの議論とは別に検討することになっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地の整備の中で、「既成市街地」と「新市街地」という言葉を使っているが、その言葉の枠はどういうふうに使っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の概念的には、新市街地については新しく市街地整備をするような箇所、具体的に言うと、例えば市街化調整区域で、市街化区域に編入するということがあれば、そういうところは新市街地という考え方をしている。今の市街化区域というか、市街地は既成市街地というくくりで考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、「既成市街地で生活関連施設の整備をする」、「新市街地では交通利便性」とあるが、そういうふうにつきり分けてしまっても大丈夫なのか。市街地を2つに分けるということ自体に、少し違和感がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと話が戻ってしまうが、今の市街地のところに関連して11ページ（6）「都市基盤整備の推進」のところで、「これまで土地区画整理が進められ」とあって、「市街化区域の約3割が土地区画整理事業により整備される予定です」と書いてあるが、実は「ふじみ野」と「みずほ台」は終わっている。しかしこの表現だと、現在も継続中と考えてしまう。表現のご検

<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>渋谷会長</p> <p>委員</p> <p>渋谷会長</p>	<p>討をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一点、18ページ（7）①「計画的な総合行政の推進」の4行目、「新たな公共の担い手との連携」とは何か。「下水道の整備」のところを見ると、⑥3行目のところ、「特定環境保全公共下水道や合併浄化槽」という具体的な話が出ているのに、ここに来て、あえて何か避けるようにしているが、指定管理者とかPFIという言葉を使ってはいけないのか。 ・ 少し話は違うが、民間でできることと議員ができること、例えば、条例をつくることなど、そういったものをもっと厳しくやってもらいたい。 ・ ひとつの例であるが、10月から、市内3駅周辺を路上喫煙禁止区域に指定する予定である。 ・ あとは放置自転車の放置については、罰則をつくるなど、もっと厳しくやらないといつまでたっても改善しない。 ・ ご指摘の部分については、少し事務局で次回までに内容を検討して、表現の方法を研究いただきたい。 ・ もう一点、言葉に引っかかるが、「計画的な土地利用」の「土地利用」という言葉は、専門用語的なので、何を意味しているのか分からない方が多いのではないかと。「住みやすい調和のとれた土地のあり方」とか、「住みやすい土地のあり方」など、そういう意味だろうと思うが、分かりやすい表現があれば、市民が分かりやすい言葉にかえたほうがよいのではないかと。 ・ 以上、今日はこれで閉めさせていただきます。 <p>事務連絡・閉会</p>
<p>8 会議資料</p>	
<p>資料1：富士見市第5次基本構想の骨子（たたき台）</p> <p>資料2：基本構想の章立てのイメージ比較表</p>	